

【活動報告】

四季の森公園「自然を訪ねて～春を待つ生き物たち」

日時：1月19日（日）13：00～15：00

場所：県立四季の森公園 はず池・あし原湿原周辺、花木広場ほか

参加者：一般16名、スタッフ5名、公園職員1名

曇天のもと、冬枯れの里山に息づくいろいろな生き物の冬越しの様子を見てまわりました。



ヨコヅナサシガメの幼虫



成虫が寄り添って越冬するナミテントウ

コナラの幹で越冬するヨコヅナサシガメの幼虫を観察しています。ほかにも、樹名板の裏側やトイレの壁の隅で越冬するナミテントウやカメノコテントウの成虫、木の枝におがくずのように付いていたサトクダマキモドキというキリギリスの仲間の産卵痕などが見られました。トイレの壁には、オオヒメグモとハラビロカマキリの卵のうもありました。



ヒメウズの芽生え

林縁でたくさん見られました。3月になると、小さな白い花を咲かせます。

草花の冬の様子も観察しました。ハコベやホトケノザはわずかに開花、カラスノエンドウやオオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウやアメリカフウロなどなど、皆背を低くして春を待っていました。

樹木には、寒さや雨雪から芽を守る芽鱗に被われた冬芽（鱗芽）をつける種類と、芽鱗のない冬芽（裸芽）をつける種類があります。冬芽には、葉を展開する葉芽、花を咲かせる花芽、両方を包む混芽という区別もあり、樹種によっては明らかに区別できました。また、芽鱗の落ちた痕（芽鱗痕）や葉の落ちた痕（葉痕）も観察できました。



オタフクアジサイの冬芽を観察



アジサイの冬芽（左）は裸芽で、葉脈が見えます。その下に葉痕もあり、維管束の痕もわかります。マンサクの冬芽（右）も裸芽。先っぽの1つが葉芽、下部の複数が花芽です。

コブシの花芽は長い毛→に被われ、そばに小さな葉芽が見られます。



コブシの冬芽を観察



←ハナイカダの枝を見ています。冬芽は鱗芽で、頂芽の下に葉痕や、前年の頂芽の痕である芽鱗痕が密に見られる短枝と、芽鱗痕は見られず間隔をおいて側芽と葉痕がある長枝の様子が観察できました。

↓ウワミズザクラの枝を引き下ろして観察しています。小枝を落とした痕が瘤のようになっているのが特徴とのことでした。

